

PRAEVIDENTIA DAILY (3月31日)

昨日までの世界：ユーロが予想外に反発

先週金曜日は、NY時間入り後に米株価と米長期債利回りが急上昇したことから、ドル/円も102円代前半から一気に102.98円と1103円乗せぎりぎりまで上昇した。この水準を維持できるか分からないが、同水準で今週金曜の米雇用統計を向かえ、市場予想を上回る伸びとなった場合には3月7日高値の103.76円が視野に入る水準に来ている。この間、本邦コアCPI前年比は+1.3%と市場予想通りで、発表後ドル/円は微動だにできなかった。

豪ドル、NZドルやカナダドルなどのコモディティ通貨は、李・中国首相が「最近の中国経済に対する下押し圧力の強まりを無視できず、適切で強力な措置を取る」と述べたことから、東京時間朝方まで続伸したが、その後欧米時間にかけてはさすがに調整が入り、これらの通貨は反落、結果的に米ドルが対主要通貨で全般的に持ち直したかたちとなった。例外はポンドで、特段追加材料はなかったものの、前日の小売売上高の予想比上振れを受けた上昇が続き、対ドルでも続伸した。

ユーロは、ドイツ・ザクセン州分CPIが前年比+0.9%と前月から0.3%ポイント伸び率が低下したほか、同時発表のスペイン分CPIも前月および市場予想の+0.1%から-0.2%へ下落したことから、ユーロ圏全体のインフレ率低下懸念が強まり、対ドルで一時1.3750ドル付近から一時1.3705ドルへ下落した。もっとも、徐々にユーロ売りの利食い売りが持ち込まれたとみられるほか、ドイツ全国分CPIが前年比+0.9%と、前月の+1.0%より下回ったものの市場予想通りの小幅低下に留まったためか、ユーロ買戻しの動きが強まり、結局ユーロ/ドルはザクセン州分CPI発表前の水準を上回る1.37ドル台後半へ反発して引けることとなった。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米2年金利差	米2年金利	日2年金利	米10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	+0.6	+0.00	+0.00	+0.00	+0.05	+0.04	-0.01	+0.5	+0.5	+0.4	+0.2
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独株価
ユーロ/ドル	+0.1	+0.00	+0.01	+0.00	-0.03	+0.01	+0.04	+1.1	+0.5	+0.2	-0.02
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	+0.2	+0.03	+0.04	+0.00	+0.01	+0.05	+0.04	+0.4	+0.5		
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
豪ドル/米ドル	-0.1	-0.02	-0.02	+0.00	-0.05	-0.01	+0.04	+0.5	-0.2	+0.4	
	変化率	NZ米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
NZドル/米ドル	-0.1	+0.01	+0.01	+0.00	-0.05	-0.01	+0.04	+0.5	-0.2	+0.4	
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB	
米ドル/加ドル	+0.3	-0.00	+0.00	+0.01	+0.03	+0.04	+0.01	+0.5	+0.4	+0.4	

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

主要通貨ペアの前週比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化(先週1週間)

	変化率	米2年金利差	米2年金利	日2年金利	米10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	+0.6	+0.10	+0.03	-0.07	-0.05	-0.02	+0.03	-0.5	+3.3	+2.2	+1.1
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独株価
ユーロ/ドル	-0.3	-0.09	-0.06	+0.03	-0.06	-0.08	-0.02	+2.2	-0.5	+1.1	-0.03
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	世界株価	米株価	中国株価	CRB
豪ドル/米ドル	+1.8	-0.07	-0.05	+0.03	-0.07	-0.09	-0.02	+0.9	-0.5	-0.3	+1.9
	変化率	NZ米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	世界株価	米株価	中国株価	CRB
NZドル/米ドル	+1.5	-0.02	+0.01	+0.03	-0.03	-0.05	-0.02	+0.9	-0.5	-0.3	+1.9
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	+0.9	+0.01	+0.04	+0.03	-0.00	-0.02	-0.02	+0.9	-0.5		
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	世界株価	米株価	原油WTI	CRB
米ドル/加ドル	-1.4	+0.03	+0.03	+0.00	+0.02	-0.02	-0.04	+0.9	-0.5	+2.2	+1.9

(注) 為替相場、株価および商品価格は前週比変化率、金利は前週比変化幅(%ポイント)。

きょうの高慢な偏見：AKP46

注目通貨：リラ/円↓、ユーロ/ドル↓

きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
本邦 2 月鉱工業生産・前月比	8 : 50	+3.8%	+0.3%	
豪 2 月民間部門信用・前月比	9 : 30	+0.4%	+0.4%	
英 2 月 BoE 住宅ローン承認件数	17 : 30	7.69 万件	7.53 万件	
ユーロ圏 3 月総合 HICP 速報・前年比	18 : 00	+0.7%	+0.6%	EU 基準で作成される CPI。
イタリア 3 月総合 HICP・前年比	18 : 00	+0.4%	+0.4%	
カナダ 1 月 GDP・前月比	21 : 30	-0.5%	+0.4%	
米 3 月シカゴ PMI	22 : 45	59.8	59.5	
Yellen・FRB 議長発言	22 : 55			
Carney・BoE 総裁発言	2 : 15			

(出所) プレビデンティア・ストラテジー作成

本日はまず、30 日投開票のトルコ統一地方選の結果への市場の反応が注目される。Erdogan 首相率いる与党 AKP は 2009 年の地方選で得票率 39%、2011 年の総選挙で 50% の得票率で勝利しており、今回の勝敗ラインは 39% とされているようだ。AKP がイスタンブールやアンカラといった主要都市で明確な勝利を収める場合には、今後 8 月の大統領選や来年の総選挙でも与党が勝利する可能性がやや高まるが、汚職疑惑や強権的手法への批判が高まる Erdogan 首相に対する反対勢力の勢いが後退することにはならない。他方、与党 AKP が敗北する場合や僅差での勝利となる場合には、先行きの政局混迷リスクが高まり、これもまた不安定要因となる。このため、いずれの結果でもトルコ政治情勢が安定化に向かうとは限らず、市場がこれに注目し始めると、トルコリラだけでなく新興国通貨に対する売り圧力や、米長期債利回りの低下を通じてドル/円の下押し圧力となるリスクがある。死傷者が出る中で行われた投票では、80% 開票の段階で、与党 AKP が全体として 46% の得票率で最大野党 CHP の 28% を大きくリード、イスタンブールやアンカラなどの大都市でも勝利したようだ。

米国関連では、シカゴ製造業 PMI と Yellen 議長発言が予定されている。シカゴ製造業 PMI については、既に発表されている NY 連銀およびフィラデルフィア連銀分が前月比改善しているにも拘らず、比較的高水準からの水準訂正から前月比小幅悪化が予想されており、やや上振れリスクがある。他方、Yellen 議長発言では、3 月 FOMC 後の記者会見におけるタカ派的な発言（今年秋に量的緩和が終了、その後 FF 金利の据え置き期間は 6 か月程度で、利上げ開始は来年春になることを示唆した）に対する修正が入るかが焦点で、当社は修正が入る可能性が高いとみておりドル安リスクだが、これに関して特に触れない場合や、前回発言を繰り返す場合には米長期債利回りの上昇と共にドル/円は 103 円乗せの可能性もある。

もう一つの注目はユーロ圏 3 月 HICP 速報値だ。先週金曜発表のドイツ分 CPI は前年比 +0.9% と市場予想通り、前月から 0.1% ポイント低下に留まりユーロ圏に繋がったが、ユーロ圏分と連動性が高いザクセン州分とスペイン分が前月から 0.3% ポイント低下、その他ブランデンブルク州や北ライン・ウェストファリア州でも前月から 0.2% ポイント低下しており、ユーロ圏分についてはやはり市場予想（前年比 +0.6%）から下振れリスクがあるように思われる。エコノミスト予想の分布をみても、中央値は +0.6% だが、+0.7% を予想している人数よりも +0.5% を予想している人数の方が多く、実際に +0.5% となったらインパクトは大きく、ユーロ/ドルは再び 1.37 ドル割れを目指すだろう。

ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様自身でご判断下さいませようよろしくお願い申し上げます。
当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。
当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第 2733 号
一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641